

平成 25 年 9 月 5 日

諸 藤 享子 様

金子みすゞの詩を読む会
幹事 前田 太二

国文祭「甲斐絹展」についてイベント開催のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび当会では、これまでの勉強会の成果を国文祭「甲斐絹展」(流通の道、文化・生活の道) 展示コーナーで発表します。

つきましては、初日①オープニングセレモニーで、当会会員高部かよ子さん 谷内正章さん所属「ひびきの会」による「金子みすゞの詩」朗読会があります。

②「近ヶ坂往還を歩く」では、会員の三浦忠一さんが案内役をつとめます。地域の産業と文化・歴史をとらえなおす機会になると思います。どうぞ会場までお出かけください。

また、特別展では、当会講師としてご教示いただいています③五十嵐哲也氏 ④山口恭子氏の講演会が、別添「講演会のご案内」のとおり催されます。なにとぞ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日会場にて、講演会資料の冊子『甲斐絹と文学散歩』を配布いたします。

敬具

記

《イベント案内》

日時

- | | |
|------------------------|------------------|
| ① 9 月 22 日 (日) 10:00～ | 「オープニングセレモニー」 |
| ② 10 月 6 日 (日) 8:30～ | 絹の道「近ヶ坂往還」を歩く |
| ③ 10 月 5 日 (土) 14:00～ | 「ヤマナシ織物産地と『甲斐絹』」 |
| ④ 10 月 12 日 (土) 14:00～ | 「郡内縞と文学」 |

場所 いずれも「ミュージアム都留」

《添付資料》

1. 甲斐絹展ミュージアム都留特別展《講演会のご案内》

1 通

以上



か い き 甲斐絹展

— 甲斐絹と歩んだ 都留の歴史と文化 —



《内案の会賞》

「甲斐絹」は都留市を中心に江戸時代から明治・大正を経て、戦後まで生産されていた絹織物で、おもに着物の裏地に使用されていました。その歴史を見ると「甲斐絹」は「織色郡内」という織物と戦国時代、南蛮貿易時、更紗などの織物と一緒に海外から輸入した「海気」という織物の流れを汲んでいます。「織色郡内」とは江戸時代、郡内地域で織られ、とくに甲州郡内谷村辺りから出るものが上品といわれ、江戸の町では「郡内縞」と呼ばれるなど、織物産地の中心的存在であった京都にもまして、江戸庶民の好みに合い、広く人気のあった着物の一種です。

また、「海気」という織物は「しま=縞」という種類のもので、オランダやベンガル地方（インド方面）から伝来したとされます。他の島から渡ってきたという意味を込め「島物」、「島渡り」などとも表現されました。

「甲斐絹」という表記は、明治時代の山梨県初代県令（当時の知事）の藤村紫朗が郡内地方の特産品にするため、山梨の「甲斐」にちなんで「甲斐絹」としたのがはじまりとされます。明治6（1873）年には、オーストリアの首都ウィーンで開かれた万国博覧会へ「甲斐絹」を出品し、進歩賞に入賞するなど世界的にも評価され、「甲斐絹」は近代以降、都留市のみならず、広く山梨県の経済発展に大きな影響を与え、その後も「甲州織」に形を変え、地域経済発展の基盤を成していきました。また「郡内縞」やその後の「甲斐絹」は井原西鶴や夏目漱石などの近世・近代文学を代表する作品に登場するなど、国内の文学作品にも影響を与えてきました。

本特別展ではこうした「甲斐絹」について江戸期の「郡内縞」（第1章）、明治～昭和期の「甲斐絹」（第2章）、昭和期以降の「甲州織」（第3章）の項目に分け、それぞれを「歴史の道」、「流通の道」、「文化・生活の道」という3つのテーマに絡めてご紹介します。甲斐絹と歩んだ都留の歴史と文化を、どうぞお楽しみください。



〔ウィーン万国博覧会メダル〕
（明治6（1875）年）



〔夏目漱石『虞美人草』初版本〕（明治41（1908）年）



〔甲斐絹標本〕（明治時代）

イベント案内

① オープニングセレモニー

- 9月22日（日）10:00（場所：エントランスホール〈入場無料・申込不要〉）
◆『ボランティアサークルひびきの会』朗読会（金子みすゞ『二つの小箱』等）10:00～
◆『鶯音の会（都留の機織り唄等）、新町お囃子演奏会』11:00～

② 講演会（場所：ミュージアム都留研修室〈入場無料・申込不要〉）

- 「海気の流通」9月28日（土）14:00～
講師 小笠原小枝先生（日本女子大学名誉教授・東京国立博物館客員研究員）
「ヤマナシ織物産地と『甲斐絹』」10月5日（土）14:00～
講師 五十嵐哲也氏（山梨県富士工業技術センター繊維部主任研究員）
「郡内縞と文学」10月12日（土）14:00～
講師 山口恭子先生（都留文科大学非常勤講師）

③ 絹の道「近ヶ坂往還」を歩く

- 10月6日（日）8:30 ミュージアム都留集合、15:00 解散（雨天の場合は中止）
講師 堀内亨先生（山梨県立ひばりが丘高等学校教諭）
◆対象：体力に自信のある方◆定員：40名、要申込（申込先は下記まで）
◆持ち物：飲み物、お弁当、雨具、タオル ◆参加料：100円



アクセス方法（交通機関の案内）

電車ご利用の方……JR中央線大月駅から富士急行線乗換、谷村町駅下車すぐ。
車ご利用の方……国道139号 谷村町駅入口、ミュージアム都留入口看板あり。
中央道ご利用の方……中央自動車道富士吉田線都留1.C.より
国道139号線に出て約10分



《講演会のご案内》

甲斐絹展
ミュージアム都留特別展

1. 「ヤマナシ織物産地と『甲斐絹』」

日時 10月5日(土)14:00～

講師 五十嵐哲也 氏

(山梨県富士工業技術センター繊維部主任研究員)

いま郡内で織られている多様なテキスタイルのルーツをさかのぼると、甲斐絹に行きつきます。甲斐絹そのものは失われてしまいましたが、今もなお郡内を日本有数の高級織物産地として知らしめる優れた技術のルーツとして、甲斐絹は遺伝子のように、形をかえて脈々と息づいています。

2. 「郡内縞と文学」

日時 10月12日(土)14:00～

講師 山口恭子 先生

(都留文科大学非常勤講師)

甲斐絹は、「郡内絹」「郡内縞」などとして、江戸時代の文学作品のなかにも登場します。これは、甲斐絹の存在が当時の読者にも広く知られていたことを意味しますが、さらにそれらを注意深く眺めてみると、「郡内絹」「郡内縞」という言葉が作品のなかで担っている役割も見えてきます。

当日のご来場者に冊子を贈呈します。

冊子『甲斐絹と文学散歩』

金子みすゞの詩を読む会 編

会場 都留市博物館「ミュージアム都留研修室」

